

[概要]

本稿では、地理学分野ではあまり議論されておらず、かつ近年利用者が増加している放課後児童クラブ利用者の世帯属性や放課後児童クラブの利用状況を把握するとともに、すでに研究がなされている保育所における送迎活動の成立要因をもとに、放課後児童クラブ利用者の送迎活動のメカニズムについて検討した。富山市の放課後児童クラブ 2 施設にアンケート調査を実施した。その結果、利用者の世帯属性として、共働きの両親とこどもからなる核家族世帯が主に利用しており、利用状況は回答者の 90%が毎日利用し、さらに全体の 70%程度が定期的に 18 時以降も利用していた。また主な送迎車は母親であった。送迎活動については、保育所のメカニズムで挙げられていた、「祖父母からの支援」は放課後児童クラブにはあてはまらず、「延長保育の利用」と「自家用車の利用」が送迎活動を成立させる要因であることが明らかになった。さらに母親が残業時間の少ない働き方をしていると考えられ、多くの家庭では働き方のジェンダーギャップの下に送迎活動が成立しているといえる。一方で今回明らかにしたメカニズムは放課後児童クラブ独自のものではなかった。なぜなら放課後児童クラブを利用している世帯は、保育所を利用していた可能性が高く、同時に形成された送迎活動が、そのまま放課後児童クラブの送迎にあてはめられたため、保育所の送迎活動の延長線上に、放課後児童クラブの送迎活動が存在するのだと考えられる。さらに送迎の担い手が夫婦以外にいないという家庭が全体の 4 割存在し、緊急時における送迎手段の確保が大きな課題であると同時に、シッターサービスとの併用や家庭が地域で孤立しないための関係作りが重要である。

キーワード：放課後児童クラブ、送迎活動、核家族世帯、富山市